

# 羅針盤

平成 29 年度 第 6 号 (通算 284 号)  
平成 29 年 9 月 15 日 (金) 発行  
岡山県総合教育センター  
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

## 小・中学校新学習指導要領 各教科等における特別支援教育の記述の新設



文部科学省より3月に示された小学校学習指導要領総則には、「障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。」と示されています。同様の内容が中学校学習指導要領総則にも記述されています。これを受けて、全ての教科等の学習指導要領解説「指導計画の作成と内容の取扱い」において、資質・能力の育成、各教科の目標の実現を目指し、児童生徒が十分な学びが実現できるよう、学びの過程で考えられる「困難さの状態」に対する「指導上の工夫と意図」と「手だて」の例が新たに挙げられました。その一部を紹介します。

### 〈小学校国語科の配慮の例〉

・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合には、児童の日常生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。

### 〈小学校体育科の配慮の例〉

・勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合には、活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。

### 〈中学校音楽科の配慮の例〉

・音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合は、表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう、イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにするなどの配慮をする。

### 〈中学校外国語科の配慮の例〉

・英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒の場合、語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりするなどの配慮をする。



「なお、学校においては、こうした点を踏まえ、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。」とも示されています。 (小・中学習指導要領解説より一部抜粋)

今回の改訂で、このような例示がなされたのは、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援を一層充実させていく必要性からです。この例示を参考にしながらも、個々の学习上及び、生活上の困難は異なることをしっかりと踏まえ、適切な指導を行っていくことが大切です。また、一人一人に応じた手だての検討から見直しまでのPDCAサイクルを組織的に行い、学校全体で、子どもたちの十分な学びを保障していくことが重要です。

(担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>

